黒埼町の今昔

第214回　執筆　宮田栄門

黒埼のスポーツ（八）

昭和初期、新潟の中等学校に通う学生達によって、野球部「太洋クラブ」がつくられた。

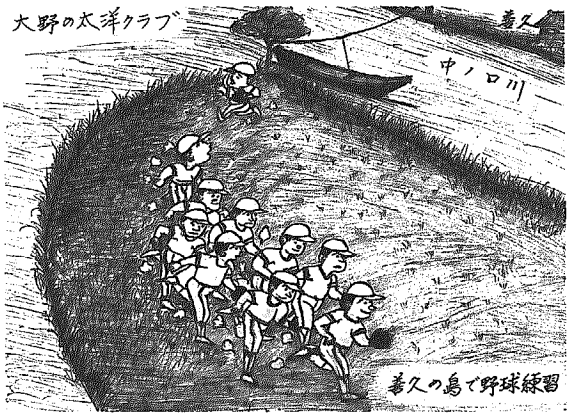
（先月号からの続き）

桜井さんは「自分達の始める前に、もう新潟の中等学校（新潟中学校、新潟商業学校）等へ通っている学生達の間に太洋クラブがつくられ、活発に練習したものだ。そして、その頃のことを一番良く知って居られるのは丸屋呉服店（七区）の高橋正平さんだろう」ということで、再度丸屋さんに取材に訪れた。高橋さんの話によると、太洋クラブは昭和二年（一九二七）頃、大野から新潟の中等学校へ通っている学生達につくられた。当時のメンバーは県立商業学校（以下新商という）が高橋正平さん（七区）、弦巻権作さん（八区）、宮野五郎さん（二ノ町）、長谷川輝也さん（七区）、松井信一さん（仲町）、芝田義男さん（新町）、広川某さん（仲町）、同校OB佐藤成男さん（鷲ノ木）と、断然多く、新潟県立中学校（以下新中という）が、細川平一郎さん（仲町）、宮野佐吉さん（二ノ町）の二人で、他に神田屋時計店の笠原万六さん（七区）も新潟の学校へ通っていなかったが太洋クラブの一員だった。

当時の中等学校の学生達は、旧国道八号線の穴ぼこだらけの砂利道を、下駄ばきで自転車に乗って新潟の学校まで通っていたのである。太洋クラブはつくったが、第一に問題となったのは野球の練習場だった。当時（大正十四年頃）、もう、大野小学校にグランドはあったが、トラックの中に田んぼや畑があって野球はできない。キャッチボールくらいであれば、栄町裏の中ノ口川の堤外地あたりでもできるのだが、バットで力一杯に球を打つだけの広場がなかった。そこで学生達は、練習できる場所を物色した。そしてみんなの意見が一致したのが、中ノ口川と信濃川の間に挟まれた善久地先に幾つかあった小島の一つだった。現在ならば、官有地の島に野球場をつくることなど、むつかしい規則や手続き等でとても不可能と思われるが、当時そのような支障もなく、早速全員力を合わせ野球場をつくることになった。

小船に乗って島へ渡った学生達は、よしや雑草や、所どころに茂った雑木などをたおして球場づくりに専念した。一週間くらいもかかっただろうか、まだ満足のいく状態ではなかったが、どうやら野球場らしきものができあがった。

さて、練習場はできたが困ったことが一つあった。島へ行くには小船で中ノ口川を渡らなければならない。中ノ口川の急流を櫂で漕ぎ渡ることは、櫂を持ったことのない彼らにとってはなかなか大変のことだった。そこで、誰かの発案で善久側から島まで太い針金をロープ代わりに張って、それにつかまって渡ろうということになり、彼らは真剣に練習した。何回か船を流されたり、川に落ちたりしながら次第に馴れてきて、心配なく渡れるようになると、学校から帰ると毎日のように誘い合って練習に通った。



高橋さんの印象に残っているのは新中出身で、左利きの名ファースト松井信一さん（後に黒埼村の教育長を務めた人）である。

昭和初期の太洋クラブ（昭和十二年頃から十九年頃）

昭和十一年、渡辺政衛さん（七区、渡作米店）が新商の一年生になった時、大野に、新潟の中等学校へ通う学生達によってつくられた野球部「太洋クラブ」があった。

それまで新潟の全日制の男子中等学校は、新中と新商の二校だけで、他に夜間中学といって後の明訓高校があった。そしてその年（十一年）北越商業学校が開校され、新潟工業学校、新潟市立中学校は昭和十四年頃開校された。（当時旧制中等学校は五年制だった。）

娯楽の何もなかった時代だったことと、軍国主義教育の団結心的思想もあってか、新中、新商に入学した学生達は、先輩の後を追うように太洋クラブに入った。昭和初期からはやり始めた野球は、その頃、少年や若者達のエネルギーを発散する唯一のスポーツとして次第に普及していった。

昭和二年、太洋クラブは丸屋さん達新潟の中等学校生によって発足し、その後、渡辺さんの入部した昭和十一年頃までかなり活躍してきたが、その資料、写真等、取材困難により後日紹介する。

政衛さんと一緒に入った部員に、後に会社員となって亡くなった浅妻仁三郎さん（新商、五区）や高校教師になって亡くなった木下正市さん（新中、現中学通り）がいる。

次に昭和十一年以降、太洋クラブに入ってきた人達を紹介する。その学校名や、入学時について取材の際の聞き違いによる間違いがあったらお許しをいただきたい。

宗村久さん（新中、元県職員、現鳥原）、渡辺進さん（新中、渡辺歯科医院、現七区）、東条光雄さん（新中、元新潟日報社、現五区）、松原徳雄さん（旧姓塚田、市立中、現新潟市自営業）、横木栄八さん（新商、元株新潟県米、現仲町）、鈴木昭さん（新中、鈴木医院、現諏訪町）、大坂昭二さん（新商、元県職員、現興野）、小菅正吾さん（新潟工業、「関取」、現新潟市）、大坂久六さん（新商、大駒洋品店、二ノ町）、鈴木七衛さん（新商、元第四銀行、現真砂町）、鈴木栄一さん（新商、てんや商店、新町）、細田博一さん（新商、新潟屋、仲町）、宗村多四郎さん（新潟工業、元県職員、新潟市）、鈴木義延さん（新潟工業、元新潟交通、新潟市）

以上が昭和十一年から昭和十九年までに入部した人達であるが、この人達の活躍期は戦後の二十二年頃から二十五、六年頃までである。

（続く）

平成十二年二月発行　四三七号　発行／黒埼町役場　〒九五〇－一一九六　新潟県西蒲原郡黒埼町大野二八四三－一　電話／〇二五三七七－三一〇一　編集／総務課（担当・総務係）　印刷／㈲喜精堂印刷

「広報くろさき」は資源保護のため再生紙を使用しています。